

1.新技術を用いた取組

[＜事例リストに戻る＞](#)

事例番号	②-(4)
事例名	スマートフォン及びカメラによる路面状況診断区分の判定
自治体名	熊本県熊本市
導入時期	令和元年 8 月
取組の背景	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路については、これまでの経年劣化に加え、熊本地震で急激に損傷劣化が進んだことにより、路面のひび割れやわだち、段差等が多く見受けられる状況となった。これらのことから、要望対応等による「事後的な対応」から「計画的な補修」へ転換を図るもの。
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の路面状況調査において、スマートフォンによる平坦性の診断とカメラによる走行調査、画像判定を行い、診断区分の判定を行う。
概要	<p>[システム概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次調査としてスマートフォンによる平坦性の診断を行い、IRI7以上の延長を抽出し、二次調査でカメラによる走行調査、画像判定を行い、診断区分の判定を行う。 専用システムではなく、スマートフォンによる簡易診断と簡易機材(カメラ)を一般車両に搭載し、撮影した画像で判定する。 <p>[導入経緯]</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般車両のため狭隘箇所も調査可能であること。また、幹線道路で実施する路面診断ほどの精度は必要がなく、路面性状自動測定装置の調査に比べて調査費用も安価なため。 <p>[活用状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 補修箇所の優先順位を決定し、年度別の補修計画を作成。
取組によって得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> 簡易な調査を実施することで、幹線道路で実施している路面性状調査よりも低コストで生活道路の路面状況の把握ができた。 調査結果をクラウド上で確認することが可能となり、市民等からの意見・要望に対して、現状の説明や対象箇所の補修計画を具体的に説明できるようになった。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> 一次調査の平坦性診断でIRI7以上の箇所が、路面状況による判定か、側溝やマンホール等の原因による判定かの画像判定(二次調査)に時間を要した。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> クラウド上で調査結果(補修箇所)が見える化することで、生活道路の路面状況の把握が可能となった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 5年～10年で見直し(再調査)を実施予定であるが、同システムを継続するかは今後検討を行うこととしている。
連絡先	熊本県熊本市 道路保全課 [電話番号 096-328-2496]